

# 1960年代出生コーホートの女性のライフコース

—結婚・出産とキャリア形成の観点から—

## Women's Life Course in the 1960's Birth Cohort

—From the perspective of marriage, childbirth and career formation—

守泉理恵・中村真理子（国立社会保障・人口問題研究所）

Rie Moriizumi and Mariko Nakamura

(National Institute of Population and Social Security Research)

Mail to: moriizumi-rie@ipss.go.jp

日本では1970年代半ばから置換水準を下回る合計特殊出生率が記録され続け、出生数も減少してきた。この「少子化」を本格的に引き起こした1960年代出生コーホートは、近年すでに40代後半以上の年齢に達し、出生過程全体の実績データが蓄積されてきた。この世代は、未婚化、晩婚化、非婚化、少産化といった結婚・出生行動の変化、さらに女性の就業の一般化を通じて、ライフコースの多様化が進んだ世代でもある。

そこで、本研究では、結婚・出産・就業の3つの観点からライフコースを類別し、1960年代出生コーホートの女性たちが実際にどのようなライフコースを歩んだのか明らかにする。分析に使用するのは、「出生動向基本調査」（夫婦・独身両調査）および「国勢調査」のデータである。国勢調査から求めた配偶関係別人口に、出生動向基本調査（第13～15回）から求めた値を掛け合わせることで、2005・10・15年時点の女性の年齢別の未婚者、離死別者、初婚・再婚を区別した有配偶者の割合を算出し、それぞれの出生有無や就業パターン（学卒時、結婚後、出産前後、現在の就業状態）についてその内訳を求めた。最後に年齢を出生コーホートに読み替えて並べ、1960年代出生コーホートの女性がどのようなライフコースを達成してきたのか明らかにする。また、60年代前後の出生コーホートのライフコース分布とも比較し、女性のライフコースが変わってきているのかどうか検討する。この際、本報告では、特に初婚を継続している有配偶女性の出生と就業のパターンに注目する。妻の学卒時、結婚直後、出産前後、現在（調査時点）の就業状態と子どもの有無の情報を組み合わせ、女性のライフコースを3つに類別した。専業主婦コース（就業経験なし、結婚時または第1子出産時に離職しその後無職）、再就職コース（結婚時または第1子出産時に離職し現在は就業）、就業継続コース（学卒時、結婚直後、第1子出産時、現在のいずれも就業）の3コースである。

全配偶関係を視野に入れた類別では、コーホートを通じて大きく増加したのは未婚（≒無子）・就業ありの女性層であった。有配偶で無子の女性も増加していた。初婚有配偶・有子女性のライフコースでは、60年代生まれの女性はむしろ就業継続率が前後の世代に比べてやや低調であった。45～49歳時において、50年代後半生れでは就業継続コースが15%であるのに対し、60年代前半生れでは13%、後半生れでは11%であった。学歴別にみると、学歴が高いほど就業継続コースの割合は高い傾向にあるが、専業主婦コースも高く、高学歴層の女性ほどライフコースが2極化する傾向がみられた。当日は、その他属性別の集計結果も報告し、60年代出生コーホートのライフコースの特徴について考察する。